

■百済王敬福 陸奥守在任時に 黄金を献上して大仏を完成させ、橘奈良麻呂の乱や藤原仲麻呂の乱でも功績があった。

くだらのこにきしきょうふく  
不比等確立・698=

従四位百済王郎虞の子の第三子に生まれる。  
曾祖父善光は、兄の百済王子余豊璋とともに倭にいた時に、百済が新羅に滅ぼされ、遺臣鬼室福信らの要望で兄が帰還し、復興をめざすも、白村江の戦に敗れて行方不明になる間も、倭に残っていたらしく、倭王権から百済王姓を下賜されて、百済王氏が始まることになった。

持統天皇没・702= 4歳：

元明天皇即位 707= 9歳：

光明子入内・716=18歳：

藤原不比等没 720=22歳：

..... 725=27歳：

長屋王の変・729=31歳：

..... 734=36歳：

藤原四卿没・737=39歳：

橘諸兄右大臣 738=40歳：橘諸兄政権になって、歴史に登場、陸奥介となり、現地赴任。  
..... 739=41歳：従五位下に叙爵し、

大仏造立の詔 743=45歳：陸奥守に昇進。仏教による、世の中の平穏を願う聖武天皇が、盧舍那仏(東大寺大仏)の造願の詔を発し、

..... 746=48歳：陸奥守を石川年足と交替して上総守に転任するが、のちの説話に、宇佐八幡宮の御託宣があって、唐からの購入を留め、返礼に120両の金が神宮に贈られたともあるように、この間に、金産出のお膳立てが整えられたらしく、急遽、従五位上へと加叙を受けて陸奥守に再任、

孝謙天皇・・ 749=51歳：\*陸奥小田郡で産出した黄金900両(12.6kg)を貢上した。狂喜した聖武天皇は、東大寺大仏殿に行幸し、仏前に詔を捧げると共に、全国の神社に幣帛を奉じ、大赦を行っている。この功勞により、従五位上から従三位へ七階級特進、天皇から大変な寵遇を受け、多くの恩賞や賜り物を与えられたという。配下の、おそらく、百済系鉦山師他田舎人部常世・小田根成も十階以上昇進して外従五位下に叙せられた。さらに、年号は天平から天平感宝、次いで天平勝宝と改められている。大伴家持も'すめろぎの 御世榮えんと 東なる みちのく山に 黄金花咲く'と詠んでいる。孝謙天皇の信頼も篤く、

..... 750=52歳：宮内卿兼河内守となって帰京、河内国交野郡に百済寺を建立して、一族の本拠地を移した。長く陸奥国に赴任していたことで、百済王氏が陸奥守や陸奥鎮守府将軍に任じられる端緒となり、自らは、政治的の力量もあって、以後、諸官を歴任し諸事件に対処して行く。その後も、陸奥国司を介して朝廷に金が貢納され、この間、陸奥では緊急の事態に対応するために諸国から徴発した鎮兵を置いていたが、他国からの徴発を停止し、陸奥国内から兵士を徴発して鎮兵に加える対応を行っている。

大仏開眼・・ 752=54歳：大仏は完成。開眼の法要が営まれ、常陸守に任ぜられた。

左大弁を経て、

橘奈良麻呂乱 757=59歳：出雲守。橘奈良麻呂の乱には、衛府の人々を率いて、反乱者の勾留警備および拷問の任に当たる。

淳仁朝に入っても地方官を歴任するが、帰京して以降の任官は実際に任地に赴かない遙任と推測される。

万葉集最終歌 759=61歳

..... 761=63歳：新羅征伐の議が起こり、紀伊から周防まで12カ国の軍事権を掌握する南海道節度使に任命された。

押勝暗殺計画 763=65歳：讚岐守へ転任。

恵美押勝の乱 764=66歳：藤原仲麻呂の乱が起きると、外衛大将として、仲麻呂が擁立した淳仁天皇を幽閉、淳仁天皇は淡路国に配流となり、孝謙上皇が重祚して、称徳天皇になった。

..... 765=67歳：称徳天皇の紀伊国行幸時には御後騎兵将軍として警護に当たり、その帰途天皇が河内国の弓削寺に行幸した際、刑部卿であったが、百済舞を奏している。

道鏡法王・・ 766=68歳：没した。最終官位は刑部卿従三位。

細かいことに拘らず、勝手気ままに振る舞う性格で、非常に飲酒と色事を好んだ。一方で物わりの良い性格で、時に官人や庶民が訪問して清貧のことを告げると、都度他人の物を借りて望外の物を与えた。このため、家にゆとりの財産はなかったという。日本最初の産金地になった小田郡の金山は現在の宮城県遠田郡涌谷町一帯で、同町黄金山神社は延喜式内社に比定され、現代の調査でも黄金山神社付近の土質は純度の高い良質の砂金が含まれているという。